

金澤北ロータリークラブ



題名：遙かな歩み 二宮町

山瀬晋吾（やませ・しんご） 1935年(昭和10年)～

珠洲郡内浦町生れ。昭和33年金沢大学教育学部美術教室卒業。昭和40年日展初入選、昭和58年日彫展にて日彫賞受賞。昭和58、59年日展特選受賞。平成元年、7年日彫展審査員就任。平成3年、10年日展審査員就任。平成10年松任市立博物館にて「山瀬晋吾彫刻展」。

現在日展会員、日本彫刻会運営委員、富山大学教育学部教授。松任市在住。

「浅の川園遊会あれこれ」

講師 金沢RC会員 蚊谷 八郎君



浅の川園遊会は 山出市長の指摘のように 市民の手作りで ボランティアでやっているのが珍しいと云われます。県内各地はもとより富山・福井からも参加しています 中核10人位を中心に10人から40人程のグループが集団となって約350人 その中の遊び好きの4人が言い出しっぺで 代表実行委員となっています。佃さんはアイデアとファイトマンで兄貴格 米澤さんはお茶屋さんで プレイベントを含め4日間のイベントの全貌を掌握していて彼に聞けば全部わかる方です。もう1人の中村駿さん 本業は宝石屋で本当の本業は東廊の中むらと云うお茶やの旦那です。もっぱら県・市・会議所・警察・消防・自衛隊など対外折衝を総て引き受けています。事務局から電話で駿さんと駆けつけたら やくざやさん3人がいきなり仁義を切って 露店の話にはいり「今年は〇軒出したい」「そりゃ多いワイ半分にせい」と言う話し合いで やくざの方からくしゃくしゃのお金を出したら 駿さん黙って受け取ってしまった「やくざからそんな金受け取っていいがカイ」「奴らの顔立てといてやらんといかんギャ」と言う事 後日警察が「あの件(露店) どうなりましたか」「半分にした」「場所は…?」「…で」「そうですね後は又よろしく…」そんな具合で行政にしる警察や自衛隊にしる どっちがどっちかわからんような人です。最後に私 財務を担当していて皆さんにお願いに行くのが私と佃さんで約400件毎年廻っています 廃業や統合など不景気を感じます。私の財務・佃さんの全体構想・米澤さんの中味構成・中村さんの外部との交渉と 自然と形が出来上がって それに各分野の方々が集まり 特別に指示する事もなく動いています 300人を越すと誰が誰かわからなくなったが、それでもスムーズに運営されている事は素晴らしい事だと思います。お金は総額2,800万位かかっています 基本的に“四分の一法”と云う考え方をしています 一つは行政 次は地域の拠出 三つ目は事業収益 四つ目は企業協賛 各四分の一を目標に考えていま

すが 構想通りになかなか行かない現状です。行政は昨年 金沢市文化活動賞を頂戴したのが引き金となり 今年から600万円となりました 地域の方はボンボリ広告を180本に増やし600万強を目標にしています 芸妓さん方もお金を出して下さっています。イベント・グッズ販売など色々苦心していますが 天気も大きく影響して大変です イベントは儲けを前面に出しては価値観が薄れると考えています 予算的に通常計算では約二倍位掛かっていると思います。

雨の中でも続けているのは 全く心意気の祭りだと云う事です。

最後に 園遊会は目的ではなく手段と考えています。目的は大きく三つあります 一つは 環境を考え地域の活性化を図り 園遊会の前と後 4トン7・8台分のゴミ集めをやっていきます。もう一つはボランティアを通じて人の輪を作ること 三番目は 界隈に沢山いる芸事のお師匠さんの芸能を後世に伝えていきたい 其の一つの形として 演舞場の再現を目指しています。その為の募金箱を150ヵ所位お店や銀行さんなどに置いてもらっています 建設資金として3,000万円を目標に募金しています。

去年はNHKのBS長時間放送が有り 金沢市文化活動賞も戴きました。その前年は高円宮殿下のご案内で国賓ルクセンブルグ国王ジャン大公殿下ご夫妻もお迎えしました 朝日放送から水谷八重子さんとの対談なども放送されました。我々の ダラなことが いい事に繋がる事を願っています ご協賛・お力添え頂けますよう お願いして 終わります。



4月13日より2週間、アメリカへ行って参りました。皆様のお蔭で壮も幸せに元気に暮らしております。改めて感謝申し上げます。忙しい私に代わりまして時間もたっぷり、私よりかはほんの少し文才にたけていると思われる？愚妻にバトンタッチいたします。

越田 和好

あたたかい“こころ”に包まれて....アメリカへの旅

当初3月末一週間程と....予定していた旅ですが、“どうせなら学校が10日間休みとなる(イースター)4月13日より2週間来ませんか?どうぞ我が家でホームステイしてください”という DeWitte さん(壮が11月よりお世話になっている家族)のご好意に甘えることとなりました。13日 DeWitte 一家 壮の笑顔に迎えられて Rochestar 空港到着。メールでやりとりしている為か初対面という気がせず、思わず抱擁!車で走ること30分...ちょっと遠回りしてダウントウンをくぐり抜けのどかな Penfield の DeWitte 家に着きました。



14日はゆっくりして15日(日)朝、教会へ行きました。DeWitte 家は敬虔なるクリスチャン、食事の前のお祈りはもちろん、礼拝は欠かしません。壮もそれに順応し、賛美歌もちゃんと覚えていました。あちらこちらから“Hi! Sou!”と声がかかりその度紹介され“Nice to meet you!”と連発の私たちでした。その日夕方より自宅でパーティー。壮のカウンセラー Mr.Weinberger、唯一あちらで知り合った日本人櫻井さん、

Mr.DeWitte (Dave) の両親、壮に関わりのある近所の方々...楽しいひとときでした。

16日より4日間は Washington D.C へ車で小旅行。Capital、White House、Lincoln Musium ...すべてがBig、Big...澄みきった青空に桜のピンク.....その美しい光景は今も目に焼き付いています。

Penfield へ戻って22日夜 Mr.Vanderwalker (Penfield R.C 会長) と Mr.Best (D7120、ガバナー) 両ご夫妻よりプライベートに招待されてステキな Dinner。とにかく笑顔がとても温かい。特に Mr.Best は去年8月より事あるごとに壮の写真をメールを通じて送ってくださっていることもあり“Sou はアメリカにおける私の日本人の子供!”この第一声に、お会いした瞬間熱いものがこみ上げました。

次の日、主人は Mr.Vanderwalker に誘われゴルフ。壮はキャディー兼通訳。ハンディー6の会長と18の主人と...少々心配しましたが、幸いにも主人は調子が良かったようです。



23日は Penfield R.C の例会に出席しました。前日夜“両親に是非スピーチを！”と壮を通じて依頼があり猛練習。(私たちは日本人！英語の発音が少々おかしくてもあたり前！といなおることにして。) 壮曰く、私のスピーチは緊張のあまりトーンが半オクターブ上がっていたようです！(ソプラノ?) ここでも Mr.Best を含め皆様の温かさにすっぽり包まれるひとときを過ごしました。

24日“最後の晩はステキなレストランで食事を”という DeWitte さんの申し出に壮はすかさず答えました。“今晚は両親と僕とで日本の料理を作るヨ。その後お茶会をするヨ。”

今回のこの旅の目的が決してブランド探しやグルメめぐりではない、壮の8ヶ月の歩みを膚で感じたい、彼がお世話になっている方々へ感謝の気持ちを表したい、…そんな私たちの真意を壮はちゃんと分かっていました。テンプラ、炊き込み御飯、肉じゃが、水引をかけたお箸も手作りして、テーブルの上はまるで Japanese Restaurant! その後、ゆかた姿の壮が 米澤さんに揃えていただいた野点用セットでお手前。何故かハッピー姿の Dave と Robby がお客様、笑いの止まらない楽しいミニお茶会でした。

その日 壮と私たちは地下室のソファベッドで朝まで語り明かしました。というのも壮が Dave に“最後の晩だから両親と心ゆくまで話しをしたい。電話代を考えるとなくフリータイムで話しができるのは今日だけだから。”と頼んだからです。

夜中 ふともらした壮の本音……“寂しいな～ 明日帰ると思うと。何だか取り残されたような気がする。”それは、弱冠17歳 英語力もないまま単身アメリカに乗り込み 計り知れない苦勞を乗り越えてきたであろう彼の緊張感が少しゆるんだ瞬間でした。胸が痛みました。でもすかさず私はこう言いました。“壮くん、8ヶ月たってお母さんが見るところ、そうね～ふた回り半ほど大きくなったかな。帰国まであと3ヶ月。ちょうどキリのいいところで3回り大きくなるのにあと3ヶ月は必要ネ！”と。“まあ こんな気持ちも今日だけだと思う。明日になればちゃんと切り替えできるから。大丈夫や！”と壮。



7月2日より一ヶ月のアメリカ大陸横断バス旅行を終えて 壮は8月6日帰国する予定です。DeWitte family、Mr.Best、Penfield R.C 会長初めメンバーの皆様、Penfield 高校の先生、お友達、近所の老夫婦、病気の時お世話になった看護婦さん……壮を取り巻く方々の温かい気持ちに包まれた2週間でした。やさしい気持ち、温かいところに国境はない。私たちはどんな高価なものにも勝る宝物でここを一杯にして金沢に帰ってまいりました。

越田 玲子

